



笹中だより

学校教育目標

自立 自ら学び
共生 互いを支えあい
創造 未来を創る笹中生

横浜市立笹下中学校 Tel 045-841-1333 令和5年7月1日 7月号

笹中HP <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/sasage/>

AIに負けない「表現力」「傾聴力」

校長 池田ゆかり

梅雨空が続いています。以前ならば「梅雨明けの眩しいほどの夏空が見たい」と願っていたと思いますが、近年の厳しい暑さ（40℃超える日も・・・）を考えると、「梅雨寒」という言葉も残したい言葉の一つだと思うようになりました。

さて、DX（デジタルトランスフォーメーション）などの言葉どおり、急激な社会情勢の変化、特にICTの発達には目を見張るものがあり、ICTは今や私たちが生きていくうえで必要不可欠です。中学生も自分のスマートフォンやタブレットを必要な生活道具として与えられている人が多いようです。2022年度「青少年のインターネット利用環境実態調査」によれば、10歳以上の小中校生は、1日に平均で4時間41分使用しており、主に動画視聴やゲーム、SNSに使っているとのこと。使用時間は年々増加しているものの、学習に使う時間は非常に少ないという調査結果は、教育面で改善が必要な課題です。

スマートフォンは確かに便利なツールですが、人間同士のコミュニケーション能力を身につける前に、SNSのぎこちない会話に振り回されている子供たちが大勢います。相手の顔をみながらの気持ちの良い「挨拶」や「返事」ができることはもちろんですが、特に中学・高校時代には様々な相手に対して、自分の考えを相手にわかりやすく、時には論理的に伝えられる「表現力」と、相手の立場になって聞き取る「傾聴力」を身につけてほしいと思います。笹下中では挨拶はもちろんのこと、教育活動での話し合い（ペアワーク、小グループの話し合い、学びあい）活動を大切にしています。性格や考え方、得意不得意がそれぞれ違う様々な生徒が集まっているのが「学校」です。顔と顔を合わせながら「挨拶」「なにげない会話」「話し合い」を続けることで、お互いに理解しあい、つながりを大切にしながらより良くできるのではないのでしょうか。

20年後、今の子どもたちが社会で活躍する時代はAIやICTがますます発達し、2045年にはシンギュラリティが起こるともいわれています。話題の「チャットGPT」も安易に使うと著作権侵害や偽情報拡散など様々なリスクがあります。そのような時代こそ、AIにはできない「相手の表情から心情を読み取り、人と人を繋ぐ会話や、建設的な議論ができる高度なコミュニケーション能力」が「生きる力」になるのです。あと3週間で夏休みです。生徒の皆さんも保護者の皆様もスマートフォンの画面を優先させず、「表現力」「傾聴力」を目の前の大切な人といっしょに楽しむ生活をこころがけてみてください。学校目標「自立・共生・創造」を自分事にする「夏」にしましょう。